

非戦・平和沖縄研修会 参加募集

戦後八十年の沖縄

〜米軍基地問題を「笑い」・向き合う〜



Jan. | 2025
沖縄開教本部通信
vol.115

ハイサイ
沖縄

※「ハイサイ」…沖縄の言葉で「こんにちは」のこと



開催主旨、沖縄戦が終結したのは一九四五年六月のことです。それから数えると、本年は八十年の節目となります。沖縄で繰り広げられた地上戦を目の当たりにし、厳しい戦後を生き抜いた方々の体験を直接聞くことができなくなってきました。そのため、戦争経験を継承するための様々な取り組みと工夫がなされています。

また一方、戦後から一九七二年までの米軍統治下から半世紀を経て、沖縄戦で占領された米軍基地は返還されるどころか最新鋭の基地に強化されようとしています。辺野古新基地の埋め立てが強硬される一方、沖縄の玄関口、那覇空港に隣接する米軍港は、北東へ六キロメートルの美しい海へ移設するために、埋め立て工事が始まっています。

戦後八十年間、厳しく残酷な問題を引き起こしつづけた在沖米軍基地。昨年も女性に対する性的暴行事件が後を絶ちませんでした。問題は深刻で厳しいから、目も背けたくなるし、話題にあげにくくなります。

この米軍基地の問題に「笑い」を通して、真正面から向き合う「基地を笑え！お笑い米軍基地」という舞

台があります。「お笑い」であり「時事問題」であり、するどい「風刺」ではあります。基地に對峙しながらも、日常を生きるエネルギーにあふれた人々の生きざまが、ユーモアたっぷりに描かれています。今回はその代表である小波津正光（こはつまさみつ）さんに公演（トークとコント）をしていただきます。また公演②では「Circle of Friends Project」の皆さんから、沖縄の様々な課題について、様々な方法で発信されていることについてご報告等いただきます。

今、沖縄は不平等な状況がますます進んでいます。安全のために米軍人家族を米国に撤収することを提言する論文が発表されています。（二〇二四年一月二日『琉球新報』）その中で米軍人家族の生活環境を司令部施設や滑走路と「不快なほど近い」と評しています。もちろん周辺

第25回非戦・平和沖縄研修会 日程（案）

4月22日(火)	4月23日(水)	4月24日(木)
	集合 那覇セントラルホテル	集合 各ホテルロビー
	8:30 出発 現地学習 予定	8:30 出発 佐喜真美術館
13:30 受付 那覇セントラルホテル	中南部基地 12:30 昼食	11:00 沖縄別院 公演②「CFP」メンバー
14:00~ オリエンテーション	南部戦跡 ガマ	12:00 昼食（別院にて） 12:40 意見交換会
公演①小波津正光氏	18:00 那覇セントラルホテル着	閉会式
18:30~夕食・懇親会	解散	14:00 出発
20:30 解散		15:00 空港着

【概要】

期 間 2025年4月22日（火）～24日（木）
会 場 那覇セントラルホテル、沖縄本島各地
集合日時 2025年4月22日（火）午後1時半
講 師 小波津 正光 氏 / 「Circle of Friends Project」の皆さん
ガイド 沖縄平和ネットワーク予定
参加費 5,000円 （※懇親会は希望者のみ別途6千円程度予定）
※往復旅費と宿泊費は全額自己負担となります。各自手配下さい。
募集人員 30名（定員に達し次第締め切ります）
申込方法 申込用紙に必要事項を記入の上、沖縄開教本部までお申し込み下さい。
申込締切 2025年4月14日（月）までに沖縄開教本部必着のこと。FAX可。
申込先 Email:okinawa@higashihonganji.or.jp FAX: 098-890-2491
その他 ①参加申し込み者へは、追って詳細をお送りします。
【注意】旅行手配の前に、必ず参加申し込みが締め切られていないかご確認ください。
※詳しくはホームページをご覧ください。



に住む沖縄県民は「撤収」できません。
こんな不平等な状況を戦後八十年間強いていることを、現実の只中に立って、実際に歩いて、見るフィールドワークも開催します。仏教徒として真宗門徒として向き合い、考える研修会をめざして開催したいと思います。皆様のご参加お待ちしております。

報恩講 報告

十月二十五日、二十六日と沖縄別院の報恩講が勤まった。

今回、二十六日の満日中法要の前に、帰敬式を執り行い、四名の方が受式された。沖縄ではこの様な儀式を目にする機会が少なく、来院された多くの方々が緊張した面持ちで参加した。

今回の講師は、能登半島

沖縄は今！

「解放へのオガリ像」

沖繩に立つ

十月二十六日、「解放へのオガリ像」が、読谷村にある彫刻家・金城実氏のアトリエに移設されたことを記念して、県内外から百数十人が集まり、完成披露祝賀会が開かれ、落成法要として東本願寺沖縄別院の僧侶が出仕した。

この像は、金城氏が教員生活をしながら住んだ大阪で、部落解放同盟大阪府連合会住吉支部の依頼を受け一九九七年に完成。住吉

の珠洲市長寛寺住職濤恵周氏を招き、能登の現状をお話をいただいた。普段メディアで目にする情報より危機的な現状を知り、聴聞された方の中には涙する人もおられた。また、二日間を振り返り、とても貴重なお話を聞くことができたとの感想もあった。

あらためて、能登に住む方々の復旧・復興がすむことを願うばかりである。

解放会館の壁に設置され、差別・人権教育に重要な役割を果たしてきた。

読谷村にきたオガリ像はしばらくアトリエ横の空き地に保管されていたが、今年九月に垂直に固定される工事が完了した。

「オガリ」とは、現地の言葉で「叫ぶ・怒鳴る」の意味を持つ「おがる」から生まれ、部落差別撤廃に向けこの名前が付けられた。母子像のモデルは住吉区の脳性麻痺の男の子とその母親だという。また像の裏には、金城氏

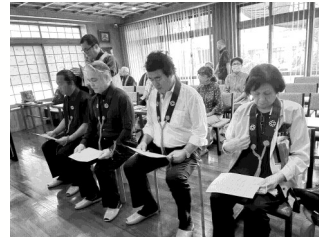


オガリ像



金城実氏

が琉球語に翻訳した「水平社宣言」も掲げられている。



帰敬式



ご法話

「新年の挨拶」

沖繩別院 輪番 長谷 暢



イーソークワチデービル

新年明けましておめでとうございます

沖繩の言葉でお正月のご挨拶をいたしました。「よいお正月です」という意味です。

さて、本年は戦後八十年の節目の年となります。私はたまたま長く沖縄に暮らしています。戦後五十年の節目であった一九九五年にも沖縄に在住していました。以来三十年を経て、変わらないことと、激変していることがあります。

文化や観光面では、沖縄は飛躍的に注目されるようになりました。ミュージシャンばかりでなく俳優にも多くの沖縄の人がいます。スポーツ界では野球を筆頭に、プロバスケットなどで注目されています。観光ではハワイよりも多くの人々が沖縄を訪れるといえます。新たなテーマパークも開園される予定で、ますます注目されるに違いありません。

一方、沖縄に不平等に偏在する在日米軍基地や自衛隊は強化されている感が否めません。辺野古だけでなく新たに米軍のための埋め立てが始まっています。離島では自衛隊基地が新たに設置され、安心できない状況が広まっています。日本の「安全」と「安心」のために、基地が必要だとされて「強化」されているわけです。しかし沖縄がこれで「安全」になり「安心」できる場になっているとは思えません。

「よい正月です」と慣用句でご挨拶しましたが、それぞれの立場での「よし・あし」です。戦後八十年つづくこの不平等な現実の只中において、今年もここ沖縄で、平和と平等が誓われている浄土をこそ拠り所として、皆さんとともに念仏の教えを聴聞してまいりたいと思います。

クトウシン ユタサルグトウ ウニゲーサピラ
(本年も宜しく願います)